

みんなに伝える平和への想い

ペンネームまたはイニシャル

Y.A



一枚の写真

今は誰も住んでいない主人の祖父の家に行ったとき、何気なく、飾ってあった写真を見ました。白黒の写真で大きく引き伸ばしてあったその写真は出征時に親族と撮った写真のようでした。その写真について語ってくれる人はもういません。祖父の写真なのか、親族のものなのか…。嫁いできたときからそこに飾られていたのになんで今まで気に留めなかったのだろうかと考えました。

先日ピースアクションinヒロシマで「デジタルアーカイブ等を活用した新たな継承学習」をYouTubeで見ました。そこで白黒写真をカラー化することで過去の話ではなく現代の事として考えられるようになり、「過去をいまに接続」することが出来るということ学びました。きっとこのことがきっかけで、以前は風景としてとらえられていた写真がいま私の目に留まったのだと思います。

その家は戦時中、物資が少なかった時に建てられた家だと聞いています。伊勢崎が機織りで景気が良かったころ機屋を営んでいたことから贅を尽くして作ったそうです。建築にかかわった人たちでしょうか大勢の人と建物の写真も一緒に飾られていました。この写真もカラー化出来たらその時の人々の声が聞こえてくるのかなと思います。当時の様子など聞いてみたかったと思いました。嫁ぐ前に亡くなっていることがとても残念です。戦争についてはいろいろな方法で学んできましたが、私の親族から戦争の話を聞いたことはありません。語りたがらないので他から学ぶしかなかったのです。

戦争を体験した方から話を聞ける機会はあるとどのくらい残されているのでしょうか。デジタルアーカイブの活用すれば、いまはどこからでも学ぶことが出来ます。多くの方に戦争のことを過去の終わってしまった事としてではなく「いま」としてとらえ、これから作るために学んで欲しいと思います。

